

講義コード	2J012012
講義名	スポーツコーチング論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	健康・スポーツ科学
科目ナンバリング	J2-2408ST
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 寺岡 祐助	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

寺岡祐助（日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー）

目的

スポーツにおけるコーチングの基本を学ぶ。
 自身の将来を考え、指導者としての自己確立の重要性を学ぶ。
 上記を踏まえ、担当教員の現場経験を紹介し、自分がスポーツに関わる指導者となった場合、どのような対応をするかの考えを深めることを目的とする。

到達目標

スポーツにおけるコーチングの重要性を理解する。
 自己確立の実施とその重要性を理解する。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識・技術／指導力

授業計画

1. 自己開示について
2. コーチングとは？
3. 自己確立について
4. 自主性・自発性について
5. プレーヤーの在り方
6. 指導者の在り方
7. コーチングの基本
8. コーチングのスキル
9. ミーティングについて
10. モチベーションについて
11. リーダーシップについて
12. チームビルディングについて
13. 自己とコーチングの関連性
14. 自己確立の実施
15. まとめ

成績の評価

授業内レポート (10%)
 期末レポート (90%)

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後のレポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。
聞き慣れない単語の意味を調べておくこと。

履修上の注意

本科目は（財）日本スポーツ協会公認スポーツプログラマー、トレーニング指導者（JATI）の資格試験受験の為に必要な科目になっています。

テキスト

「公認スポーツ指導者 養成テキストⅠ・Ⅱ・Ⅲ」（公益財団法人 日本スポーツ協会）

参考資料

「スポーツコーチング学 指導理念からフィジカルトレーニングまで」（西村書店）

オフィスアワー

水曜日 16：30～18：00

金曜日 13：00～14：30

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階教員室
teraoka@kansai.ac.jp

講義コード	2J023012
講義名	スポーツ社会学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	健康・スポーツ科学
科目ナンバリング	J2-2409ST
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中尾 哲也	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

中尾 哲也【アスレティックトレーナー、アシスタントマネージャー】

目的

スポーツ選手を支えてきた日本の文化（人・物・環境）を理解し、セラピストとして関われる方法や役割を考える基礎的知識を深めることを目的とする。

到達目標

様々なスポーツシーンから、今後のスポーツへの関わり方を考えられるようにする。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

思考力・創造力／専門知識・技術

授業計画

1. ストレスコーピング・ライフスキル、運動部活動のあり方に関する総合的なガイドライン
2. フィギュアスケート男子
3. スポーツタレント発掘事業、スポーツ基本計画
4. 柔道
5. スポーツの概要と歴史（共通科目Ⅰ P.36～43）、文化としてのスポーツ（共通科目Ⅰ P.44～52）
6. フェンシング
7. 地域におけるスポーツ振興方策と行政のかかわり（共通科目Ⅰ P.149～158）、総合型地域スポーツクラブの必要性と社会的意義（共通科目Ⅰ P.159～166）
8. 車椅子テニス
9. 社会の中のスポーツ（共通科目Ⅱ P.13～20）、総合型地域スポーツクラブの育成と運営（共通科目Ⅱ P.78～86）
10. フィギュアスケート女子
11. 日本スポーツ振興センター、国立スポーツ科学センター、ナショナルトレーニングセンター
12. サッカー
13. クラシックバレエ
14. ゴルフ
15. 陸上競技（短距離）

成績の評価

各講義後のレポート内容により評価する。（100%）レポートには、その日に行われた講義の内容と感想を記載することとする。

定期試験、レポート等に対するフィードバック
提出されたレポートは、次の講義で返却する。
自己学習
授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。
履修上の注意
「日本スポーツ協会公認 スポーツプログラマー」、「JATI認定 トレーニング指導者」を受験する学生は、当科目を履修しなければならない。
テキスト
「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅱ」(日本スポーツ協会)
オフィスアワー
月～木曜日 12:30～13:00
研究室・授業用E-mail
研究室：4号館7階 D719 E-mail：nakao@kansai.ac.jp

講義コード	2J061012
講義名	運動生理学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	人体の構造と機能
科目ナンバリング	J2-2008HT
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 五十嵐 純	指定なし

目的

運動生理学の基本は生理学である。生理学が「安静時の人体の生理学」であるのに対して、運動生理学は「運動する人体の生理学」であり、安全で効果的なスポーツ活動の実施、指導を行う上で重要な学問である。従って、本講義では、スポーツ活動が身体の生理機能に及ぼす影響に関する基礎知識の習得を目的とする。

到達目標

運動が生理機能に及ぼす影響を理解するとともに、競技者の生理的特徴や変化についても学ぶ。また、健康維持増進や身体諸機能の向上を目的とした運動指導についても考えられるようにする。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

思考力・創造力／専門知識・技術

授業計画

1. 筋収縮とエネルギー供給系 1
2. 筋収縮とエネルギー供給系 2
3. 筋収縮とエネルギー供給系 3
4. 筋組織の種類と特徴 1
5. 神経系の役割 1
6. 神経系の役割 2
7. 筋の収縮様式と筋力 1
8. 筋の収縮様式と筋力 2
9. 筋の収縮様式と筋力 3
10. 運動と循環 1
11. 運動と呼吸 1
12. 運動と呼吸 2
13. 運動と呼吸 3
14. 幼少期から思春期、高齢期の身体機能の変化
15. 筋持久力の測定と考察（実習）

成績の評価

筆記試験：70%
 実習とレポート：30%
 （再試験では筆記試験のみで評価）

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

運動中に生じる様々な生体反応に興味を持ち、講義で学んだことを自分の身体で体験すること。
授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

「健康運動実践指導者」、「トレーニング指導者(JATI)」の指定科目である。
遅刻・早退は1回を1/3欠席として計算する。

テキスト

「入門運動生理学 第4版」 (杏林書院)

参考資料

「健康運動実践指導者用テキスト」健康・体力づくり事業財団

オフィスアワー

木曜の12:30~13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階 401研究室 igarashi@kansai.ac.jp

講義コード	2J067012
講義名	英語表現法Ⅲ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1304
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 亀 節子	指定なし

目的

基礎英語力とリスニング力の強化を主目的とする。同時に、英語の苦手な学生に対して、英語学習への興味を育むことを目指す。

到達目標

英語でも日本語でも、「言葉は感情や人格の発露である」という言語活動の奥にある基本的な性質を理解することによって、異文化や外国語への積極的な関心を身につけること。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／実践力・対応力

授業計画

- 1.UNIT1 《Thank you for～》
- 2.UNIT1 《Mark Twain》
- 3.UNIT2 《look up to～》
- 4.UNIT2 《Baseball》
- 5.UNIT3 《Why don't we do?》
- 6.UNIT3 《Colonists》
- 7.UNIT4 《What is ~like?》
- 8.UNIT4 《Apple pie》
- 9.UNIT5 《How about~?》
- 10.UNIT5 《Disney land》
11. 《Bells of Notre Dame》 鑑賞
- 12.UNIT11 《be used to ~》
- 13.UNIT11 《Cajun food》
- 14.UNIT12 《Noun&Article》
- 15.UNIT12 《Hamburger》

成績の評価

定期試験（70%）および質疑応答における主体性や集中度（30%）。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験、レポートの解説を学生から希望があるときに実施する。

自己学習

予めテキストに目を通して単語の確認を済ませておけば学習効果が増す。

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

"SNOOPY'S World of English" (朝日出版社)
その他、プリントを配布する。

参考資料

講義の中で紹介する。

オフィスアワー

金曜日 16時から17時

研究室・授業用E-mail

管理棟2階 204研究室・skame@kansai.ac.jp

講義コード	2J068011
講義名	英語表現法Ⅳ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1305
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 亀 節子	指定なし

目的

基礎英語力とリスニング力の強化を主目的とする。同時に、英語の苦手な学生に対して、英語学習への興味を育むことを目指す。

到達目標

英語でも日本語でも、「言葉は感情や人格の発露である」という言語活動の奥にある基本的な性質を理解することによって、異文化や外国語への積極的な関心を身につけること。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／実践力・対応力

授業計画

- 1.UNIT13 《I wonder if～》
- 2.UNIT13 《Washington》
- 3.UNIT14 《really～》
- 4.UNIT14 《Melting Pot》
- 5.UNIT15 《be surprised》
- 6.UNIT15 《Native Americans》
- 7.UNIT16 《unless》
- 8.UNIT16 《Luther King》
- 9.UNIT17 《I don't know if～》
- 10.UNIT17 《Jazz》
11. 《Ms.Scrooge》鑑賞
- 12.UNIT18 《That's why～》
- 13.UNIT18 《Blues Songs》
- 14.UNIT19 《do one's best》
- 15.UNIT19 《The Mississippi》

成績の評価

定期試験（70％）および質疑応答における主体性や集中度（30％）。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験、レポートの解説を学生から希望があるときに実施する。

自己学習

予めテキストに目を通して単語の確認を済ませておけば学習効果が増す。

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

"SNOOPY'S World of English" (朝日出版社)
その他、プリントを配布する。

参考資料

講義の中で紹介する。

オフィスアワー

金曜日 16時から17時

研究室・授業用E-mail

管理棟 2階 204研究室・skame@kansai.ac.jp

講義コード	2J069012
講義名	衛生・公衆衛生学Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	保健医療福祉と柔道整復の理念
科目ナンバリング	J2-2201
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 尉林 鈴	指定なし

目的

現代社会に生きる人々が遭遇する多くの疾病と健康課題について理解すると共に、それらの予防方法や、現在実施されている医療保健対策の仕組みと意義について学習すること。

到達目標

医学の基礎知識と予防医学の専門技法の両方を身につけた公衆衛生のスペシャリストを目指すこと。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

思考力・創造力／専門知識・技術

授業計画

1. 衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動
2. 健康の概念・健康観
3. 人口構造、衛生統計
4. 疾病予防と健康管理の方法
5. 疾病とリスク要因、集団検診の意義
6. 感染症の概念と発症条件
7. 感染症の種類と予防対策
8. 感染症法、検疫法、予防接種法
9. 消毒方法の選択と適応条件の見極め
10. 消毒方法の応用
11. 地球規模の環境問題の実態、公害訴訟
12. 物理的・化学的環境要因、および大気汚染による健康への影響
13. 上水と下水の衛生、住居の衛生
14. 食中毒・食品衛生、栄養状況の実態、廃棄物処理
15. 総括・まとめ

成績の評価

定期試験の成績90%, 平常の小テスト成績10%の割合で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

平常小テストと定期試験終了後、模範解答を開示する。

自己学習

本講座の中心的なテーマである健康課題や予防方法は時代と共に変化するものであり、行政側は常に国民のニーズに合わせて医療保健対策や制度を改善させていかなければならない。そこで履修者の諸君には授業内容と合わせて、日頃から新聞やテレビなどのメディアで取り上げられた保

健情報について、より専門的な視点から注意を払って欲しい。
授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「衛生学・公衆衛生学 改訂第6版」(南江堂)

参考資料

2018/2019年「国民衛生の動向(厚生指標 臨時増刊)」(財団法人厚生統計協会)

オフィスアワー

授業終了後、そのまま教室にて不明な点や質問等を受け付ける。

講義コード	2J070012
講義名	衛生・公衆衛生学Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	保健医療福祉と柔道整復の理念
科目ナンバリング	J2-2202
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 尉林 鈴	指定なし

目的

公衆衛生学Ⅰに続いて本講座では、母子保健や、学校保健および労働衛生分野に多くみられる職業病や生活習慣病、及び精神衛生等の現状を理解すると共に、それらの健康課題に対応する衛生行政および保健医療の制度、国際保健の動向についても学習する。

到達目標

医学の基礎知識と予防医学の専門技法の両方を身につけた公衆衛生のスペシャリストを目指すこと。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

思考力・創造力／専門知識・技術

授業計画

- 母子保健の意義、母子保健の健康指標と現状
- 母子保健対策・母子保健事業の成果と今後
- 学校保健①：学校保健の対象、保健教育と保健管理活動、学校感染症予防
- 学校保健②：保健管理活動の実際、健康状況の統計
- 産業保健①：最近の職場の特徴、労働災害の現状と予防、労働衛生の3管理
- 産業保健②：職業病および作業関連疾患の予防、職場における健康診断と健康増進
- 成人・高齢者保健①：日本人の死因構造、生活習慣病の特性
- 成人・高齢者保健②：保健福祉対策、介護保険制度
- 精神保健福祉対策の歩み、精神保健福祉法
- 主な精神疾患の特徴、精神障害の医療とその動向
- 地域保健、プライマリ・ヘルス・ケアとヘルスプロモーション、国際保健・WHOの保健事業
- 衛生行政・保健所と市町村保健センターの役割、国民健康づくり（健康日本21第2次）の意義
- 医療保険制度、医療計画、公費医療と国民医療費の分析
- 医療の倫理と安全の確保
- 総括・まとめ

成績の評価

定期試験の成績^{90%}、平常の小テスト成績^{10%}にて評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

平常小テストと定期試験終了後、模範解答を開示する。

自己学習

本講座の中心的なテーマである健康課題や予防方法は時代と共に変化するものであり、行政側は常に国民のニーズに合わせて医療保健対策や制度を改善させていかなければならない。そこで履修者の諸君には授業内容と合わせて、日頃から新聞やテレビなどのメディアで取り上げられた保健情報について、より専門的な視点から注意を払って欲しい。

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「衛生学・公衆衛生学 改訂第6版」 (南江堂)

参考資料

2019/2020年「国民衛生の動向(厚生指標 臨時増刊)」 (財団法人厚生統計協会)

オフィスアワー

授業終了後、そのまま教室にて不明な点や質問等を受け付ける。

講義コード	2J078021
講義名	外科各論
講義開講時期	通年
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	疾病と傷害
科目ナンバリング	J2-2105T
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 金井 成行	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

金井成行(医師)

目的

外科に関する疾患を中心に原因、症状、診断、治療を解説し、理解を求める

到達目標

外科医と同等の知識の修得

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

思考力・創造力／専門知識・技術

授業計画

1. 外科学とは
2. 3. 損傷
- 4, 5 炎症と感染
6. 腫瘍
7. ショック
8. 輸血
9. 輸液
10. 消毒と滅菌
11. 手術
- 12, 13 麻酔
14. 移植と免疫
15. まとめ（前期）
16. 出血と止血
17. 心肺蘇生
18. 交通外傷
19. 20 胸部外傷
- 21, 22 腹部外傷
- 23, 24 脳外傷
- 25, 26 脳血管障害
- 27-30 総まとめ

成績の評価

定期試験	80%
レポート	10%

小テスト 10%

自己学習

学習範囲が広いので予習が肝要である。

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

「トレーニング指導者」の指定科目になっています。

テキスト

外科学概論(南江堂)

オフィスアワー

月曜日 12:30-13:00

研究室・授業用E-mail

診療研究棟409研究室

kanai@kansai.ac.jp

講義コード	2J120012
講義名	健康運動実習Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	健康・スポーツ科学
科目ナンバリング	J2-2404HS
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 竹尾 吉枝	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

竹尾 吉枝（健康運動指導士、介護予防主任運動指導員）

目的

有酸素運動は生活習慣病やメタボリックシンドロームの改善に有効であることが知られている。有酸素運動として一般的に行われている一つにエアロビックダンスがある。本講座ではエアロビックダンスの健康に対する効果を理解させるとともに、基本的プログラム作成上の指導指針と初級指導法の習得、および運動の楽しさを伝えられる指導者としての姿勢づくりを目標とする。また、ストレッチングの実際についても学習する。

到達目標

毎時のねらいに応じた、エアロビックダンス指導に必要な基本技術や動作を実践する。またそれらと平行した講義を通じてエアロビックダンス指導に必要な基礎理論を理解する。以上を確認する課題に適宜取り組み、最終的に勤務先等で役立つよう、プログラミングと指導のロールプレイングを体験する。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

実践力・対応力／指導力

授業計画

1. 授業ガイダンス、エアロビックダンスの背景・特性、初級プログラムの実践
2. クラス形式と授業順序の重要性、初級プログラムの実践
3. キューイングテクニック、初級プログラムの実践
4. メインエクササイズの部分指導演習
5. 正しい姿勢と筋強化エクササイズの必要性、初中級プログラムの実践
6. エアロビックダンスの運動処方、初中級プログラムの実践
7. 指導の循環、初中級プログラムの実践
8. ウォームアップの部分指導演習
9. プログラム作成上の留意点、音楽について、中級プログラムの実践
10. 自重で行う筋力強化エクササイズの指導法、中級プログラム
11. ストレッチングの指導法、中級プログラム
12. 授業前の指導とプレゼンテーションテクニック、グループテスト練習
13. 健康運動実践指導者実技模擬試験
14. 健康運動実践指導者実技模擬試験
15. 健康運動実践指導者理論対策

成績の評価

実技試験で設定した課題への到達度と授業への取り組む姿勢などで評価する。

出席点・授業への取り組み度：55%、実技試験：45%。

・小課題実技を2回実施し、1回につき10%とする。

・学期末課題実技は1回実施し、25%とする。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

実技終了後、その評価を全体および個別に解説する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

授業4～5回毎に修了確認とする課題を実施する。課題の前週には練習を行い、実演の留意点の資料を配布する。その資料を参考に各自、計画的に学習することが望ましい。

履修上の注意

実技授業のため、授業の全部が見学の場合は不可とする。見学・遅刻、途中退出は出席点・授業への取り組み度より減点する。

ウェアは骨格筋肉の動きがわかる大きすぎることなく動きやすい、かつ吸汗速乾性のあるものを着用すること。その他の持ち物は、室内運動用シューズ（衝撃吸収性が高く、適度な柔軟性があるものが望ましい）とタオル、スポーツドリンクなどの飲料水、講義対応の筆記用具。肩にかかる長髪は束ね、アクセサリは非装着とする。

財健康・体力づくり事業財団が認定する「健康運動実践指導者」を受験する学生は、当該科目を履修する必要がある。当該科目は、そのテキストの、「エアロビック運動の理論と実際（エアロビックダンス、ストレッチ）」の内容を含む。また、「トレーニング指導者（JATI）」の指定科目でもある。

テキスト

「健康運動実践指導者養成用テキスト」

((公財)健康・体力づくり事業財団)

参考資料

「新エアロビックダンスエクササイズの実技指導」

((公財)日本フィットネス協会)

オフィスアワー

金曜日 10:40～12:10

研究室・授業用E-mail

info@genki-kyokai.com 竹尾 宛て

講義コード	2J121012
講義名	健康運動実習Ⅱ
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	健康・スポーツ科学
科目ナンバリング	J2-2405HS
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 朝海 伯子	指定なし

目的

1. 健康づくりを目的とした水中運動の理論を理解する
2. 安全かつ効果的な水中運動を習得する
3. 自ら見本を示せる実技能力と集団に対する運動指導を習得する

到達目標

健康運動実践指導者の指導実技試験内容（水中運動）を行えるようにする

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

実践力・対応力／指導力

授業計画

1. 注意事項 授業説明 水なれ 水中運動実技
2. 水中運動の理論 水中運動実技(1)
3. 水中運動の理論 水中運動実技(2)
4. 水中運動の理論 水中運動実技(3)
5. レジスタンス運動 水中運動実技(1)
6. レジスタンス運動 水中運動実技(2)
7. 指導案作成 水中運動実技 指導実技(1)
8. 指導案作成 水中運動実技 指導実技(2)
9. 水中運動実技 指導実技(1)
10. 水中運動実技 指導実技(2)
11. 水中運動実技 指導実技(3)
12. 水中運動実技 指導実技(4)
13. 水中運動実技 指導実技(5)
14. 試験日(1)
15. 試験日(2)

成績の評価

試験日に水中運動（3分間）の指導実技テストを行う。技術の修得及び、説明能力・表現・指導力・適応能力を総合評価する。

試験100%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

実技終了後、その評価を全体および個別に解説する。

自己学習

水中運動の目的・方法を理解し、説明する練習をする。

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

水泳帽子着用・水着は体にフィットしたものを着用

「健康運動実践指導者」および「スポーツプログラマー」を受験する学生は当該科目を履修しなければなりません。

テキスト

「健康運動実践指導者養成テキスト」

(財)健康・体力づくり事業財団

講義コード	2J152011
講義名	子どもの健康と看護
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	医療複合
科目ナンバリング	J2-2302
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 津島 和美	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

津島和美(看護師) 三浦美知代(看護師)

目的

子どもは成長発達の途上であり、子どもを取り巻く環境との相互作用において健やかな成長発達を遂げる。子どもが健やかに成長発達するためには、子ども期の発達段階に応じた支援が必要になる。この科目では、成長発達の一般原則とき基礎知識を理解するとともに実際の子どもの健康は把握、日常生活の支援、発達を促す企画・実施を行い子どもへの関心を高める。

到達目標

1. 成長発達の原理原則を説明することができる。
2. 子どもの健康、生活支援の基本を述べるができる。
3. 子ども期の特徴がわかり、子どもを取り巻く環境対策を述べるができる。
4. 子どもの発達を促す支援の企画・実施・評価ができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

思考力・創造力／専門知識・技術

授業計画

1. 生涯人間発達からみた各子ども期の特徴
2. 成長発達の一般的原則と基礎知識
3. 乳児期、幼児期の形態的成長、機能的発達①
4. 乳児期、幼児期の精神的発達
5. 子どもの健康状態
6. 乳幼児期の日常生活と支援
7. 学童期の特徴
8. 子どもの特徴と事故予防
9. 子どもの特徴と救急処置
10. 子どもと遊び
11. 幼児期の子どもの発達を促す企画①
12. 幼児期の子どもの発達を促す企画②
13. 幼児期の子どもの発達を促す企画③
14. 幼児期の子どもの発達を促す企画④
15. グループ発表、まとめ

成績の評価

定期試験(80%) 企画課題(10%) 授業への取り組み(10%)

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5(45分)コマ相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

指定なし

オフィスアワー

金曜日 16:00～18:00

研究室・授業用E-mail

C704研究室 tushima@kansai.ac.jp (津島)

講義コード	2J155011
講義名	社会福祉論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1205
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 駒井 博志	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

駒井 博志（精神保健福祉士）

目的

多くの可能性をもつことが可能な時代になったものの、一方では、様々な理由により社会的な支援(社会福祉)を必要とする人たち(当事者とする)も多く存在する。本講では、当事者の状況を理解するとともに当事者が利用できる法や制度、支援内容に関する理解、また、支援を実践する専門職とその方法についての理解を深めることを目的とする。なお、授業は授業計画に基づいて行う予定であるが、授業の進捗状況(学生の理解・関心等)によって変更することもある。

到達目標

当事者の状況や支援の枠組みや支援者、支援制度形成に至る背景・歴史について理解をし、仕事に従事した時の当事者理解を深めることができるようになること。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／思考力・創造力

授業計画

1. 社会福祉とは何か
2. 基本的枠組み
3. 同 上 その2
4. 最低生活保障と生活保護制度
5. 同 上 その2
6. 児童家庭と次世代育成の展開
7. 同 上 その2
8. 高齢者の生活と福祉
9. 同 上 その2
10. 障害者の支援と福祉
11. 同 上 その2
12. 実践と方法（ソーシャルワーク）の理解
13. 同 上 その2
14. 同 上 その3
15. まとめ

成績の評価

定期試験（80～70%） およびミニレポート等の授業への取り組み度（20～30%）

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

講義内容の理解を深めるため、参考図書①②を利用し予習と復習を行うこと。
授業1コマにつき2コマ（180分）担当の予習と復習を行うこと。

テキスト

使用しない

参考資料

- ①「新社会福祉とは何か（第3版）」（中央法規出版）
- ②「社会福祉の動向」（中央法規出版）

講義コード	2J169022
講義名	情報科学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1106
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 中村 正信	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

中村正信

目的

現代の社会にはおびただしい数の情報が流れているが、その中で生活し働くものとして、能率良く必要かつ有用な情報を入手しそれらを整理し分析する能力を身に付けることは大切なことである。さらに、医療従事者にとっては情報モラルや情報セキュリティも非常に重要である。今後、高度化する医療機器を扱う機会がますます増加することなどから、情報科学・情報技術の重要性を理解し、安全に活用する必要がある。

到達目標

コンピュータの操作からはじめて、文章・画像情報処理・データ処理等の技術を習得する。これからの学生生活において学ぶための1つの重要なスキルを身につけることを目指す。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／思考力・創造力

授業計画

01. 情報社会のセキュリティ、コンピュータの基本操作
02. ワードプロソフトの利用-ビジネス文章の作成
03. ワードプロソフトの利用-表でまとめる
04. ワードプロソフトの利用-図で魅せる
05. ワードプロソフトの利用-レポートの作成
06. 表計算ソフトの利用-書式で編集
07. 表計算ソフトの利用-関数を使う
08. 表計算ソフトの利用-グラフの作成
09. 表計算ソフトの利用-データベースの活用
10. 表計算ソフトの利用-効率化を図る
11. ソフトの連携
12. プレゼンテーションソフトの利用-スライドの作成
13. プレゼンテーションソフトの利用-魅力的に仕上げる
14. 総合演習
15. まとめ

成績の評価

試験約60%・授業中提出物約30%・授業への取り組み度約10%

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

講義では各課題に対して授業中に完成させることを重視しているので、特にパソコン初心者は復習よりは予習を強く勧める（予めテキストに目を通し学習内容のイメージを持つことは大変有効である）。

テキスト

「実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応」（noa出版）

参考資料

「情報利活用コンピュータリテラシー」（日経BP社）

オフィスアワー

水曜日（17:00～18:00）

なお希望者は予めE-mail等で連絡をとり場所を確認してください。

研究室・授業用E-mail

E-mail nakamura@kansai.ac.jp

講義コード	2J199011
講義名	整形外科学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	疾病と傷害
科目ナンバリング	J2-2106HT
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 金井 成行	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

金井成行(医師)

目的

整形外科疾患について原因、症状、診断、治療を解説し理解を求める

到達目標

整形外科医と同等の知識の修得

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

思考力・創造力／専門知識・技術

授業計画

1. 整形外科学とは
2. 関節、軟骨、運動器疾患
3. 変形性関節症、リウマチ
4. 神経損傷、脊髄損傷
5. 骨軟部の腫瘍
6. 骨折の治療
7. 頸椎疾患
8. 胸椎疾患
9. 腰椎疾患
10. 股関節疾患
11. 下肢の疾患
12. 上肢の疾患
13. 膝の疾患
14. 肩の疾患
15. まとめ

成績の評価

定期試験	80%
レポート	10%
小テスト	10%

自己学習

学習範囲は広いので事前に予習が肝要である。
授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

「健康運動実践指導者」「トレーニング指導者 (JATI)」の指定科目になっています。

テキスト

整形外科学 (南江堂)

オフィスアワー

月曜日 12:45 - 13:00

研究室・授業用E-mail

診療研究棟 4階 409 研究室
kanai@kansai.ac.jp

講義コード	2J211021
講義名	整復治療学Ⅰ（徒手療法基本実技）
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	整復実技
科目ナンバリング	J2-3109
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 若野 正一	指定なし

目的

組織損傷を回復させる為の治療法の1つである手技療法として軽擦・揉捏・叩打・圧迫・振戦・伸展法などがある。これらの基本手技を繰り返し練習し、臨床に応用できる基礎技術を修得することを目標とする。

到達目標

身体の各部位、個々の筋肉を正確に把握できる技術を身につける。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識・技術／実践力・対応力

授業計画

1. ガイダンス／授業を始めるための注意事項／マッサージの準備／各種技法
2. 実技を始めるための注意事項／頸部～腰部の軽擦法（伏臥位）／軽擦法について
3. 前週の復習／脊柱上の圧迫法／頸部の柔捏法／柔捏法について／按摩・指圧・マッサージの相違点
4. 前週の復習／肩上部の柔捏／肩甲骨内縁の柔捏／脊柱側の圧迫／脊柱側の柔捏
5. 前週の復習／腰部、背部外側から肩関節への柔捏／叩打法
6. 前週までの復習
7. 腰部、仙骨部の軽擦／腰仙部の圧迫／腰仙部の柔捏／殿部の圧迫／殿部の柔捏
8. 前週の復習／大腿後面の軽擦／大腿後面の圧迫／大腿後面の柔捏／下腿後面の軽擦／下腿後面の圧迫／下腿後面の柔捏
9. 前週の復習／アキレス腱の軽擦／大腿前面の軽擦／大腿前面の柔捏／膝蓋骨周辺の柔捏／膝蓋骨の骨移動法
10. 前週の復習／下腿前面の軽擦／下腿前面・外側の柔捏／足背、足底、足指の柔捏
11. 前週の復習／肩関節、上腕の軽擦／三角筋の柔捏／上腕の柔捏／前腕の軽擦／前腕の柔捏／手掌の圧迫
12. 手背の柔捏／手指の柔捏／前週までの総復習／前期テストの概要
13. 前期テスト（実技）
14. 前期テスト（実技）
15. 臨床で役立つ知識やトピックス等

成績の評価

定期試験（実技）で評価する。

実技の修得度については、実技試験と実習時の実技を見て評価する。また実技試験では、揉み方、圧迫の仕方、筋の理解度等について評価する。

さらに実習時の行動、実習態度も加味して総合的に評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験（実技）の解説を実施する。

自己学習

次回講義範囲を講義中に伝えるので前もってテキストを見ておく事。

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

本科目は実技が中心となるため、自発的かつ積極的に授業に望むこと。また、毎回の授業で出席を確認する。授業時は上下共白衣着用する事。その他の受講上の注意事項については講義時間の中で伝達する。

参考資料

「スポーツマッサージの技術と応用(ビデオ)」(スポーツクラブ協会編)

講義コード	2J212031
講義名	整復治療学Ⅱ（徒手療法応用実技）
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	整復実技
科目ナンバリング	J2-3113
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 松浦 穰士	指定なし

目的

手技療法の軽擦・揉捏・圧迫・叩打・振戦法を応用して、各種スポーツ障害に対する手技を中心とした治療法の修得を目的とする。また、筋肉を目的としたマッサージだけでなく、関節の拘縮、骨折や捻挫の後療に対する運動法や、筋・神経伸展法も併せて指導を行う。

到達目標

毎回の講義でマッサージの方法・姿勢をしっかりと頭に入れ、各自復習をして臨床に活かせる技術を身につける。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識・技術／実践力・対応力

授業計画

1. ガイダンス／基本手技の復習
2. 手指・手部障害のマッサージ
3. 手関節障害のマッサージ
4. 肘関節・上腕部のマッサージ
5. 手・肘関節の牽引性運動法
6. 前腕部の神経・筋伸展法
7. 肩関節のマッサージ
8. 肩関節の牽引性運動法、肩・上腕部の神経・筋伸展法
9. 足指部のマッサージ、足部のマッサージ
10. 足関節・下腿部のマッサージ
11. 膝関節・大腿部のマッサージ
12. 足・膝関節の牽引性運動法、下腿・大腿部の神経・筋伸展法
13. 股関節のマッサージ、股関節の牽引性運動法、殿部の神経・筋伸展法
14. 前回までの総復習、実技試験の説明
15. 実技試験

成績の評価

実技試験（100%）

自己学習

スポーツ障害に対する理解を深め、筋肉の起始・停止、靭帯、神経の走行を確認すること。授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

本科目は実技が中心となるため、自発的かつ積極的に授業に望むこと。また、毎回の授業で出欠

を確認する。授業時は上下共ケーシーを着用する事。その他の受講上の注意事項については講義時間の中で伝達する。

テキスト

『スポーツマッサージ』 (KATA)

参考資料

「スポーツ東洋療法ハンドブック」 (医道日本社)

オフィスアワー

水曜日 12:30～13:00

講義コード	2J213021
講義名	整復治療学Ⅲ（テーピング実技）
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	整復実技
科目ナンバリング	J2-3114
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 織田 育代	指定なし

目的

柔道整復師として骨折、脱臼、捻挫、打撲、挫傷など運動器の外傷からの回復の過程あるいは回復後、主としてスポーツなどの活動に復帰する際、再受傷を予防するためのテーピング法を習得することを目的とする。

到達目標

各部位におけるテーピングの基本的な技術を獲得することを目的とする。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識・技術／実践力・対応力

授業計画

1. ガイダンス、テープの種類、基本的な扱い方
2. 膝関節のテーピング
3. 大腿部のテーピング
4. 腰部のテーピング
5. 肩部のテーピング
6. 肘関節部のテーピング
7. 手・指節間関節部のテーピング
8. 足関節部のテーピング 1
9. 足関節部のテーピング 2
10. 足関節部のテーピング 3
11. アキレス腱部のテーピング
12. アーチ・シンスプリントのテーピング
13. 応 用
14. 実技試験
15. 実技試験

成績の評価

実技試験（足関節のテーピング、それ以外のテーピングから一つ、の計2種類）において、要した時間、機能性、美観の3要素それぞれについて合格点に達しているか否かで評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

実技試験終了後、成績評価を開示する。

自己学習

純粋に実技を学ぶ授業。苦手だと感じる技術があった場合は各自がそれぞれ時間・パートナーを見つけて練習すること。

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

参考資料

実習のなかで適宜紹介する。

オフィスアワー

金曜日 12:30-13:00

研究室・授業用E-mail

3号館3階 HP教員室
orita@kansai.ac.jp

講義コード	2J261011
講義名	中国語Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1306
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 晃野 真季	指定なし

目的

初めて中国語に触れる方を対象に学ぶ中国語の入門編です。中国語を習得するために、まず、基礎となる中国語表音ローマ字(ピンイン)の発音を徹底的に指導し、簡体字や機能語及び簡単な構文法を会話練習しながら、少しずつ身に付けるよう勉強して行きます。

到達目標

授業毎に個別に発音・会話の確認を行い、中国語の学習の基盤を作っておく事が目標です。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力/実践力・対応力

授業計画

1. 中国語について、受講する際の注意点について
2. 第1課. 発音(1) 声調について
3. 第2課. 発音(2) 母音について
4. 発音・聞き取り練習
5. 第3課. 発音(3) 子音について
6. 有気音と無気音、発音・聞き取り練習
7. 第4課. 発音(4) 鼻母音(-nと-ng)・r化音について
8. 発音・聞き取り練習、練習問題を解き
9. 第1課～第4課 ピンインのルールをまとめ、習得度確認小テスト
10. ピンイン表でまとめ復習、リスニングテスト、前期末テストについて
11. 第5課. 出迎える
12. 復習、応用問題の練習、作文の準備
13. 第6課. 歓迎パーティー
14. 復習、応用問題の練習、作文の準備・発表
15. 前回続き、作文を発表する・前期末まとめ練習問題提出

成績の評価

授業への取り組み度、定期試験および課題作り・発表、レポートの成績により総合的に評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

事前にテキスト内容を確認、本文を写し、CDを聴く。
授業を受ける条件として、教科書を持参すること。

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

出席状況は座席指定と出席カードで確認。授業中に如何なる理由でも退出した場合は出席カードを返却して頂く。20分以上の遅刻、遅刻3回・教科書忘れ1回で欠席とする。私語は厳禁、携帯電話の使用、他の教科を学習した場合、授業を辞退したとする。毎課ごとに採点があり、欠席した場合も、必ずその課の習得度確認を受ける。授業毎に個別に発音・会話を確認する。発音、聞く、話せることを重点に平常点を付ける。詳細事項は開講時に説明する。

テキスト

「しゃべっていいとも 中国語」 (朝日出版社)

参考資料

必要時は授業中に指示する。

講義コード	2J262011
講義名	中国語 II
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1307
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 晃野 真季	指定なし

目的

初めて中国語に触れる方を対象に学ぶ中国語の入門編です。中国語を習得するために、まず、基礎となる中国語表音ローマ字(ピンイン)の発音を徹底的に指導し、簡体字や機能語及び簡単な構文法を会話練習しながら、少しずつ身に付けるよう勉強して行きます。

到達目標

授業毎に個別に発音・会話の確認を行い、中国語の学習の基盤を作っておく事が目標です。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力/実践力・対応力

授業計画

1. 前期授業をまとめ練習問題、作文の問題点について
前期授業内容をおさらいする
2. 第7課. タクシーに乗る
3. 確認小テスト、応用問題の練習
4. 応用問題の練習、前回続き
5. 第8課. 宿泊する
6. 確認小テスト、応用問題の練習
7. 応用問題の練習、前回続き
8. 第9課. 道を尋ねる
9. 確認小テスト、応用問題の練習
10. 応用問題の練習、前回続き
11. 第10課. ショッピングをする
12. 確認小テスト、応用問題の練習、レポートについて
13. 応用問題の練習、前回続き
14. 第11課. おしゃべりをする
15. 年度末まとめ練習問題提出、レポートについて、質問⇔回答

成績の評価

授業への取り組み度、期末試験および課題作り・発表、レポートの成績により総合的に評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

事前にテキスト内容を確認、本文を写し、CDを聴く。

授業を受ける条件として、教科書を持参すること。
授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

出席状況は座席指定と出席カードで確認。授業中に如何なる理由でも退出した場合は出席カードを返却して頂く。20分以上の遅刻、遅刻³回・教科書忘れ¹回で欠席とする。私語は厳禁、携帯電話の使用、他の教科を学習した場合、授業を辞退したとする。毎課ごとに採点があり、欠席した場合も、必ずその課の習得度確認を受ける。授業毎に個別に発音・会話を確認する。発音、聞く、話せることを重点に平常点を付ける。詳細事項は開講時に説明する。

テキスト

「しゃべっていいとも 中国語」 (朝日出版社)

参考資料

必要時は授業中に指示する。

講義コード	2J276011
講義名	内科各論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	疾病と傷害
科目ナンバリング	J2-2104H
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 津田 和志	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

津田 和志（医師）

目的

内科各論は内科診断学、総論で学んだ知識を基礎とし、内科系の各分野毎に代表的疾患について、それらの成因・病態生理・症状・検査、診断法・治療法を学習する。

到達目標

各種疾患に的確に対応できる総合的な知識を持った医療人の養成を目的とする。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

思考力・創造力／専門知識・技術

授業計画

1. 循環器疾患(1)
2. 循環器疾患(2)
3. 呼吸器疾患(1)
4. 呼吸器疾患(2)
5. 消化器疾患(1)
6. 消化器疾患(2)
7. 内分泌・代謝疾患(1)
8. 内分泌・代謝疾患(2)
9. 腎・泌尿器疾患(1)
10. 腎・泌尿器疾患(2)
11. 血液疾患
12. 免疫・アレルギー疾患、膠原病
13. 神経疾患(1)
14. 神経疾患(2)
15. 感染症

成績の評価

定期試験（90%）、ならびに授業態度等（10%）により総合的に評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

模範解答を掲示する。

自己学習

授業1コマにつき45分相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

「健康運動実践指導者」を受験する学生は当該科目を履修しなければなりません。

テキスト

「一般臨床医学」
奈良信雄 他著（医歯薬出版）

参考資料

「内科学」（朝倉書店）

オフィスアワー

木曜日内科外来終了後（内科外来にて15:30頃より）。会議、出張が多いので事前連絡必要。

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟 4階405研究室・tsudak@kansai.ac.jp

講義コード	2J279011
講義名	内科診断学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	疾病と傷害
科目ナンバリング	J2-2103
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 津田 和志	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

津田 和志（医師）

目的

内科診断学では内科学総論として、代表的な症候や症状、基本的身体診察技術、補助検査等について講義をする。

到達目標

病態の全体像を的確に判断し、さらに患者の身体的のみならず、精神、神経的な問題を的確に理解できる能力を養うことを目標とする。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

思考力・創造力／専門知識・技術

授業計画

1. 疾病の概念
2. 内科診断学の目標
3. 診察手順
4. 面接、病歴のとり方
5. 現症のとり方
6. 各種検査法とそれらの意義
7. 主要症候とその鑑別(1)
8. 主要症候とその鑑別(2)
9. 主要症候とその鑑別(3)
10. 主要症候とその鑑別(4)
11. 主要症候とその鑑別(5)
12. 主要症候とその鑑別(6)
13. 主要症候とその鑑別(7)
14. 主要症候とその鑑別(8)
15. 主要症候とその鑑別(9)

成績の評価

定期試験（90%）、ならびに授業態度等（10%）により総合的に評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

模範解答を掲示する。

自己学習

授業1コマにつき、2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「一般臨床医学」（医歯薬出版）

参考資料

「内科学」（朝倉書店）

オフィスアワー

木曜日内科外来終了後（内科外来にて15:30頃より）。会議、出張が多いので事前連絡必要。

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟 4階405研究室・tsudak@kansai.ac.jp

講義コード	2J297012
講義名	病因・病態学Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	疾病と傷害
科目ナンバリング	J2-2101
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 畑村 育次	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

畑村 育次（医師）

目的

疾病の正しい理解、診断と治療のために、人体の疾病の成因（Etiology）、さらにどのような過程で人体に病気を発症させるかという発生機序（Pathogenesis）を理解し、これらに基づき人体機能の異常と形態の異常の関連について正しい知識を身につけることを目的とする。

到達目標

本講義では各種疾病の病因や病態について基礎的な理解ができること、さらに自ら考える能力を養うことを目標とする。このような疾病の原因や病態の科学は、病理学と呼ばれる領域において研究発展させられてきたものであり、西洋医学的な視点から疾病を理解するための基礎として、特に病理学概論について講義を行う。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

思考力・創造力／専門知識・技術

授業計画

1. 疾患の内因 1
2. 疾患の内因 2
3. 疾患の外因 1
4. 疾患の外因 2
5. 細胞の損傷、虚血、低酸素、萎縮と変性（1）
6. 細胞の変性（2）
7. 老化と加齢
8. 黄疸、肥大、過形成、再生
9. 創傷治癒、化生、壊死、アポトーシス
10. うっ血、充血、浮腫
11. 脱水、ショック、出血
12. 血栓、塞栓、DIC1
13. 血栓、塞栓、DIC2
14. 炎症基礎1
15. 模擬試験

成績の評価

定期試験100%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後模範解答を開示する

自己学習

病理学は、解剖学や生理学、生化学などの知識の上に成り立っている。従って、これらについて、よく復習をしておくことが必要となる。また授業に臨むにあたっては授業レジュメをあらかじめ読み、授業後その日のうちに復習し、一週間後に確認テストの復習をすること。自己学習時間については授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

授業レジュメを配ります。
「[病理学概論] (医歯薬出版)

参考資料

「ロビンス基礎病理学」(廣川書店)
「標準病理学」(医学書院)
「わかりやすい病理学」(廣川書店)
「イラスト病理学」(文光堂)
「ゼットイわかる病理写真の読み方」医学教育出版社)
「病理組織の見方と鑑別診断」(医歯薬出版)
「シンプル病理学」 南江堂

オフィスアワー

木曜日 12:00-13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階402研究室 i-hatamura@kansai.ac.jp

講義コード	2J298012
講義名	病因・病態学Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	疾病と傷害
科目ナンバリング	J2-2102
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 畑村 育次	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

畑村 育次（医師）

目的

人体において、疾病がどのような原因により発生し、また、どのような過程を経て病的変化が形成されていくかを知ることが、疾病の本質を理解する上で重要なことである。このような疾病の原因や病態の科学は、病理学と呼ばれる領域において研究発展させられてきたものであり、西洋医学的な視点から疾病を理解するための基礎として、疾患の病因・病態を理解する

到達目標

この講義では病因・病態Ⅰの続きおよび各疾患の病因・病態について基本的な講義を行い、前期で学んだことをさらに発展させ疾患の基礎的理解を深める。各種疾病の病因や病態について、理解ができるようにするとともに、自ら考え得る能力を養うことをも目標とする。本講義では各種疾病の病因や病態について基礎的な理解ができること、さらに自ら考える能力を養うことを目標とする。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

思考力・創造力／専門知識・技術

授業計画

1. 炎症各論 1
2. 免疫の基礎 1
3. 免疫の基礎 2
4. 免疫 1
5. 免疫 2
6. インフルエンザ
7. 免疫異常・アレルギー
8. 自己免疫疾患 1
9. 自己免疫疾患 2・臓器移植
10. 腫瘍 1
11. 腫瘍 2
12. 腫瘍 3
13. 先天性疾患と遺伝性疾患 1
14. 先天性疾患と遺伝性疾患 2
15. 模擬試験

成績の評価

定期試験 %

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する

自己学習

病理学は、解剖学や生理学、生化学などの知識の上に成り立っている。従って、これらについて、よく復習をしておくことが必要となる。また授業に臨むにあたっては授業レジュメをあらかじめ読み、授業後その日のうちに復習し、一週間後に確認テストの復習をすること。自己学習時間については授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

毎回授業レジュメを配ります。
「病理学概論」(医歯薬出版)

参考資料

「ロビンス基礎病理学」(廣川書店)
「標準病理学」(医学書院)
「わかりやすい病理学」(廣川書店)
「イラスト病理学」(文光堂)
「ゼットイわかる病理写真の読み」』医学教育出版社)
「病理組織の見方と鑑別診断」(医歯薬出版)
「シンプル病理学」 南江堂

オフィスアワー

木曜日 12:00-13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階402研究室 i-htamura@kansai.ac.jp

講義コード	2J418011
講義名	日本国憲法（法の基礎知識）
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1202
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 池田 裕明	指定なし

目的

法学の基礎的知識日本国憲法について解説することをこの講義の目的とする。しかし、何も難しいことを講義しようとするものではない。むしろ、我々の日常生活の中にいかに多くの法律関係・法律問題が存在しているかということ、伝統的な法学の体系に即した講義を行うことにより、理解してもらいたいと考えている。現実の生活を法的に理解・説明できる素養を習得しようとするものである。

形式としては、通常の講義形式で行う。内容としては、プロローグとして、六法の使い方等について解説したうえで、法の本質、法の種類、裁判制度等の、いわゆる法学の総論的な問題および日本国憲法を扱う。

到達目標

学生諸君の将来の進路に鑑み、可能な限り、医事的・時事的問題もとりあげたい。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／倫理に基づく行動力

授業計画

1. プロローグ
2. 法とは何か
3. 日本国憲法 1 日本国憲法と明治憲法
4. 日本国憲法 2 国会
5. 日本国憲法 3 内閣
6. 日本国憲法 4 裁判所
7. 日本国憲法 5 基本的人権
8. 日本国憲法 6 基本的人権
9. 日本国憲法 7 基本的人権
10. 日本国憲法 8 地方自治
11. 家族と法
12. 医療と法
13. 犯罪と法
14. 労働と法
15. エピローグ

成績の評価

成績評価は、期末とミニッツペーパーおよびレポート等。
なお、詳細については、第1回目の講義において説明する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

履修上の注意

講義形式という制約から、どうしても一方的講義とならざるを得ないが、受講者とのコミュニケーションをはかるために、ミニツツペーパーを随時実施する。このミニツツペーパーでは、課題に答えてもらうと共に、受講者から質問、疑問を提起してもらうことで、それらの問題を講義にとり入れていきたいと考えている。なお、このミニツツペーパーは成績評価の際に、資料の一つとして利用する。さらに、このミニツツペーパーは出席調査の意味ももっている。

テキスト

「目で見える憲法」 (有斐閣)

「現代法学入門」 (有斐閣)

「ポケット六法 (2019年)」 (有斐閣)

参考資料

講義において紹介する

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階305研究室

講義コード	2J419011
講義名	社会学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1204
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 木村 弘之	指定なし

目的

講義では、「社会学的なものの見方」について説明していきます。感情、歩き方、子ども、家族、恋愛、結婚、食生活など具体的な事象を例に、社会的変数から焦点を当てることで、そこに意外な視点を発見していく過程を紹介していきます。

到達目標

講義で紹介する「社会学的なものの見方」について理解し、そのように捉えることのメリット、デメリットなどについて考察できるようになること。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／思考力・創造力

授業計画

1. 社会性とは① 感情と社会の規範
2. 社会性とは② ナンパ歩行と身体の規範
3. メディアと社会① ジェンダーと性別の捉え方
4. メディアと社会② 社会統計と印象の操作
5. メディアと社会③ 社会の医療化
6. メディアと社会④ 都市伝説と世間
7. 社会階層と社会① 恋愛結婚の受入れ
8. 社会階層と社会② 恋愛結婚と結婚戦略
9. 家族と社会① 高齢化社会のはじまり
10. 家族と社会② 高齢者の役割と居場所
11. 家族と社会③ 少子化社会とスウェーデン幻想
12. 家族と社会④ 児童虐待と育児不安
13. 社会と科学① 3歳児神話について
14. 社会と科学② 母子同室制と育児の知識
15. 社会と科学③ 食育とフードファディズム

成績の評価

毎回のレポートを60%、期末のレポートを40%として評価します。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

毎回のレポートについては、次回の講義で、解答例とレポートを開示します。
 期末のレポートについては、成績発表後、解答例とレポートを開示します。

自己学習

毎回の講義内容を、毎回のレポート等を利用して、整理しておくこと。

毎回の講義内容を応用できる具体例を、日頃の生活の中で色々と探してみることに。
授業1コマにつき、2コマ(180分)相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

テキスト

毎回、プリントを配布します。

参考資料

講義の中で、適宜、紹介します。

オフィスアワー

講義終了後、教室にて質問を受け付けます。

講義コード	2J420011
講義名	教育学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1206
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 北山 敏和	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

北山 敏和

目的

「教育＝学校」と狭くとらえるのではなく、私たちの社会や生活のさまざまな場面、例えば家庭や保健医療の場で行われている教育的な営みにも注目し、教育の仕組み、歴史、さまざまな教育実践の形など、教育に関する基本的なことがらについて幅広く学ぶ。

また、仕事や生活など、これからの人生のさまざまな場面で活用できる、自分自身を高め伸ばして行く力、好ましい人間関係を作ってゆく力である「行動する力(＝ライフスキル)」についての基本を理解し、活用できるようにする。

学習はグループ活動とディスカッションを基本とし、受講者がそれぞれに持つ知識、経験、情報を共有することを通して、個人の能力だけではなく集団としての能力が高まることを体験的に学ぶ。

到達目標

- 1 教育の目的や方法、基本的な制度や仕組みが分かる
- 2 人間の「能力」と「教育」の関係が分かる
- 3 発達段階とその行動特性が分かる
- 4 行動する力＝ライフスキルと健康な社会の関係について分かる
- 5 ライフスキル使って自分の生活の質と仕事の質を改善向上させることが出来る

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／主体性・責任感

授業計画

1. 教育学で何を学ぶか(オリエンテーション)
2. 遊びと学習：自然な学びと組織的・計画的な学び
3. 教育の仕組みと教育制度：学校とは何か
4. 教育と能力：人間の能力の多様性
5. 学力とは何か：将来の生活、仕事に必要な学力について考える
6. 考える力と行動する力：私たちの人生と行動する力＝ライフスキル
7. 発達段階と教育(1)発達段階とは何か
8. 発達段階と教育(2)子どもの発達と行動特性
9. 発達段階と教育(3)思春期／青年期の発達と行動特性
10. 現代の教育問題(1)コミュニケーションと創造的思考
11. 現代の教育問題(2)自尊感情と自信
12. 教育と地域社会：社会参画と奉仕活動

- 13. ニーズに応じた教育：特別支援教育
- 14. 教育と医療の協働：予防医学と健康教育
- 15. 健康な社会と教育：ヘルス・エンパワーメント

成績の評価

授業後のミニレポート50% 課題についてのレポート50%

毎授業後にミニレポートを提出し、授業期間の中間と終了時の2回、課題についてレポートを提出する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業終了後、①何を学習したのか ②新しく獲得した知識、情報、スキルは何か ③学習したことを自分の将来の生活や職業の場でどのように生かすか の観点でふり返り、まとめること。また次

時のテーマとして示されたことについて、自分の考えを用意しておくこと。

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

必要な資料は配布する。

参考資料

「よく分かる教育学原論」（ミネルヴァ書房）

「育児の国際比較—子ども社会と親たち」（日本放送出版協会）

「ライフスキル教育入門」（風人社）

「ライフスキル教育入門」（風人社）

「対訳21世紀に生きる君たちへ」（朝日出版社） 司馬遼太郎

研究室・授業用E-mail

質問等があれば E-mailで

heisan.kitayama@nifty.com

講義コード	2J502011
講義名	包帯学Ⅱ
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	整復実技
科目ナンバリング	J2-3102
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 高岸 美和	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

高岸 美和〔柔道整復師〕

目的

包帯学Ⅰに引き続き、骨折、脱臼、打撲、捻挫等を取り扱う柔道整復師にとって欠かせない技術である包帯を学ぶ。

到達目標

包帯学Ⅰの上肢・体幹部に引き続き、下肢に対して、臨床上の目的に合った包帯を施すための基礎的技術を身につける。さらに、三角巾を代表とする布帛包帯を利用した身体各部位に対する包帯技術を習得し、固定法への応用につながる基礎的技術を身につける。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識・技術／実践力・対応力

授業計画

1. 巻軸包帯（趾・足部）
2. 巻軸包帯（足関節）
3. 巻軸包帯（踵）
4. 巻軸包帯（下腿・膝関節）
5. 巻軸包帯（大腿部・股関節）
6. 巻軸包帯応用、布帛包帯（基本）
7. 布帛包帯（頭頰部）
8. 布帛包帯（手・前腕）
9. 布帛包帯（肩・胸・提肘）
10. 布帛包帯（下腿・膝）
11. 復習
12. 実技試験
13. 実技試験
14. 布帛包帯（提肘応用・固定）
15. 固定応用

成績の評価

授業時間内に実施する実技試験（100%）により評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

実技試験終了後に総評を行う。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

予習：巻軸包帯・布帛包帯の基本の確認

復習：講義内容の理解と実技練習（モデルを変えてたくさんの人に巻く）

テキスト

「包帯固定学」改訂第2版（南江堂）

随時プリントを配布する。

オフィスアワー

前期：月曜日（16：40～18：00）

後期：木曜日（16：40～18：00）

研究室・授業用E-mail

研究室：診療・研究棟4階 415研究室

E-mail：takagishi@kansai.ac.jp

講義コード	2J503011
講義名	高齢者ケア論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	医療複合
科目ナンバリング	J2-2303H
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩井 恵子	指定なし
非常勤	田中 章慈	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

田中章慈（医師） 岩井恵子、森岡朋子、川添英利子（看護師）

目的

加齢に伴う身体的、精神的変化を把握し、高齢者特有の疾患とその病態を理解し、高齢者に対する健康増進、日常生活におけるQOL向上や身体機能の改善を図るための適切な介入や指導ができる医療者の養成を目的とする

到達目標

1. 加齢に伴う身体的・精神的変化を説明できる。
2. 高齢者に特有な疾患について、病態・診断・治療を説明できる。
3. 高齢者のライフスタイルが理解できる。
4. 高齢者とのコミュニケーションの方法を理解できる。
5. 介護保険制度を理解する。
6. 認知症について説明できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

思考力・創造力／社会貢献力

授業計画

1. 高齢者ケアに求められるものとは(田中)
2. 高齢者の生理的特徴(田中)
3. 老年症候群(田中)
4. 高齢者のフィジカルアセスメント(田中)
5. 高齢者の疾患の特徴(田中)
6. 高齢者と薬剤(田中)
7. 高齢者のリハビリテーション(田中)
8. 高齢者の在宅医療(田中)
9. 高齢者のライフスタイル(岩井)
10. 加齢が生活に及ぼす影響(川添)
11. 高齢者とのコミュニケーション(川添)
12. 介護保健制度とは(森岡)
13. 認知症とは(森岡)
14. 認知症が生活に及ぼす影響(森岡)
15. 認知症高齢者の対応について(森岡)

成績の評価
定期試験で評価する (100%)
定期試験、レポート等に対するフィードバック
定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。
自己学習
配布資料を参照に、授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。
履修上の注意
「健康運動実践指導者」の指定科目になっています。
テキスト
授業内で配布する。
参考資料
授業の中で適宜紹介する。
オフィスアワー
岩井：水曜日12：20～13：00 メールにて、事前にアポイントメントをとればその他の時間においても調整は可能である。
研究室・授業用E-mail
5号館7階C701号室 iwai@kansai.ac.jp(岩井)

講義コード	2J555011
講義名	スポーツトレーニング論Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	健康・スポーツ科学
科目ナンバリング	J2-2406HST
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 寺岡 祐助	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

寺岡祐助（日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー）

目的

スポーツ競技において高い競技力を発揮するためには、トータル的なコンディショニングを実施していく必要がある。体力トレーニングをはじめとして技術や戦術の練習、障害や疾病の予防や対処、食事や休養面の改善、メンタル面の強化、チーム運営・管理など、多くのものが含まれる。本講義では、担当教員の経験も紹介し、スポーツに求められる体力要素の知識を深め、指導上の基礎を学習することを目的とする。

到達目標

スポーツトレーニングの概略を理解する。
 スポーツトレーニングの基礎を理解する上での用語を説明出来るようになる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識・技術／実践力・対応力

授業計画

1. トレーニングとは何か？
2. 体力とは何か？
3. スポーツパフォーマンスと体力
4. トレーニングの原理・原則
5. トレーニング処方
6. ウォーミングアップとクーリングダウン
7. トレーニングの種類
8. 指導計画の立て方
9. 運動指導の科学
10. スポーツ活動と安全管理
11. 対象に合わせたスポーツ指導（中高齢者）
12. 対象に合わせたスポーツ指導（女性とスポーツ）
13. 対象に合わせたスポーツ指導（障害者とスポーツ）
14. 対象に合わせたスポーツ指導（発育発達期）
15. 指導するとは？

成績の評価

- ・授業内レポート（10%）
- ・記述式定期試験（90%）

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

聞き慣れない単語の意味を調べておくこと。また、その単語を説明出来るように復習しておくこと。

履修上の注意

「健康運動実践指導者」「トレーニング指導者」「日本スポーツ協会公認スポーツプログラマー」を受験する学生は当科目を履修しなければなりません。

テキスト

「公認スポーツ指導者 養成テキストⅠ・Ⅱ・Ⅲ」（公益財団法人 日本スポーツ協会）

参考資料

「トレーニング指導者テキスト 理論編」（大修館書店）

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥」（公益財団法人 日本スポーツ協会）

「健康運動実践指導者 養成用テキスト」（健康・体力づくり事業財団）

オフィスアワー

水曜日 16：30～18：00

金曜日 13：00～14：30

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階教員室

teraoka@kansai.ac.jp

講義コード	2J556011
講義名	スポーツトレーニング論Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	J2-2407HST
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 相澤 慎太	指定なし

目的

スポーツ競技において高い競技力を発揮するためには、トータルなコンディショニングを計画的に実践していくことが不可欠である。コンディショニングとは、競技力を高めるために必要なあらゆる要素を改善および調整していくことであり、体力トレーニングをはじめとして技術や戦術の練習、障害や疾病の予防および対処、食事や休養面の改善、メンタル面の強化、チームの運営・管理など、非常に多くのものが含まれる。

本講義ではスポーツに求められる「体力像」の概念を知り、体力の諸要素を高められるために行うトレーニング全般について学修する。

また担当教員の経験も紹介し、実践に役立つ知識を学習することを目的とする。

到達目標

スポーツトレーニングの概略を理解する。

実際の現場で実践できる基礎理論を理解する。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識・技術／実践力・対応力

授業計画

1. スポーツバイオメカニクスの基礎 (相澤)
2. スポーツバイオメカニクス (スポーツ・トレーニング) (相澤)
3. トレーニング理論とその方法 (トレーニングの考え方) (相澤)
4. トレーニング理論とその方法 (筋力トレーニング①) (相澤)
5. トレーニング理論とその方法 (筋力トレーニング②) (相澤)
6. トレーニング理論とその方法 (スピードトレーニング) (相澤)
7. トレーニング理論とその方法 (持久力トレーニング) (相澤)
8. トレーニング理論とその実際 (トレーニング目標の設定) (相澤)
9. トレーニング理論とその実際 (トレーニングプログラムの設計①) (相澤)
10. トレーニング理論とその実際 (トレーニングプログラムの設計②) (相澤)
11. 体力テストとその活用 (相澤)
12. 体力テストとその活用 (相澤)
13. スキルの獲得と獲得過程① (相澤)
14. スキルの獲得と獲得過程② (相澤)
15. まとめ (相澤)

成績の評価

小レポート50% 定期試験50%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

本科目は、「健康運動実践指導者」、「日本スポーツ協会公認スポーツプログラマー」、「トレーニング指導者」の対応科目である。

テキスト

「公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」(日本スポーツ協会)

オフィスアワー

木曜日

12:30~13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階 313研究室

aizawa@kansai.ac.jp

講義コード	2J561011
講義名	頭部・胸部・上肢帯整復学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	基礎・臨床整復学
科目ナンバリング	J2-3002
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井口 理	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

井口 理（柔道整復師）

目的

胸骨・肋骨・鎖骨・肩甲骨の骨折、肩鎖関節・胸鎖関節・肩関節の脱臼に関する発生メカニズムから治癒までの経過を理解する。

到達目標

各部位の外傷の特徴を理解し、臨床および国家試験に必要な知識を身につける。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

思考力・創造力／専門知識・技術

授業計画

1. ガイダンス
2. 胸部の骨折 1
3. 胸部の骨折 2
4. 胸部の骨折 3
5. 上肢の骨折（鎖骨） 1
6. 上肢の骨折（鎖骨） 2
7. 上肢の骨折（鎖骨） 3
8. 上肢の脱臼（鎖骨） 1
9. 上肢の脱臼（鎖骨） 2
10. 上肢の脱臼（鎖骨） 3
11. 上肢の骨折（肩甲骨） 1
12. 上肢の骨折（肩甲骨） 2
13. 上肢の脱臼（肩関節） 1
14. 上肢の脱臼（肩関節） 2
15. 上肢の脱臼（肩関節） 3

成績の評価

定期試験100%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「柔道整復学（理論編）」（南江堂）
「柔道整復学（実技編）」（南江堂）

オフィスアワー

木曜日：放課後～18:00（その他、在室時はいつでも対応します。メールでも構いません）

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3F308研究室

講義コード	2J562011
講義名	脊柱・上肢近位部整復学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	基礎・臨床整復学
科目ナンバリング	J2-3003
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 藤原 清治	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

藤原清治（柔道整復師）

目的

脊柱および上腕・肘関節部の損傷は、日常生活やスポーツ現場においても遭遇する可能性が高い。現場での施術に役立てるように、各損傷の理論を学習する。

到達目標

各損傷の特徴を理解し、脊柱・上肢近位部整復学実技Ⅰ・Ⅱに反映できるように習得する。また国家試験にも多数出題される範囲のため、資格取得に必要な知識を習得する。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

思考力・創造力／専門知識・技術

授業計画

1. ガイダンス
2. 肩関節部の運動器について
3. 上腕骨近位部骨折
4. 上腕骨骨幹部骨折
5. 上腕部軟部組織損傷
6. 肘関節部の運動器について
7. 肘関節部骨折
8. 肘関節部骨折
9. 肘関節脱臼、肘内障
10. 肘関節部軟部組織損傷
11. 脊柱の運動器について
12. 脊柱骨折
13. 脊柱部脱臼・脱臼骨折
14. 脊柱部軟部組織損傷
15. 総合復習

成績の評価

学科試験（100％）により評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

テキスト

「柔道整復学・理論編 改訂第6版」 （南江堂）

「柔道整復学・実技編 改訂第2版」 （南江堂）

※必要に応じてプリントを配布する。

講義コード	2J568011
講義名	頭部・胸部・上肢帯整復学実技Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	整復実技
科目ナンバリング	J2-3103
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井口 理	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

井口 理（柔道整復師）

目的

講義では、頭部・顔面の骨折、肩関節・顎関節の脱臼、肩部・顔面部の軟部組織損傷について、発生メカニズムから治癒までの経過を理解する。

実技では、頭部・顔面・胸骨・肋骨・鎖骨・肩甲骨の骨折、顎関節・肩鎖関節・胸鎖関節・肩関節の脱臼、肩部軟部組織損傷に関して、整復法・固定法・検査法・鑑別法の基礎を修得する。

なお、当該科目は、「キャリア教育科目」に指定されています。資格を取得した上で、自らが卒業後の職業を選択し、将来的にその現場で活躍、貢献できるよう授業の一部で「人間力」や「仕事力」が身に付くように支援します。

到達目標

各部位の外傷の特徴を理解し、国家試験に必要な知識を身につけるとともに、臨床に対応する知識と実技を修得する。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識・技術／実践力・対応力

授業計画

1. 固定具の製作（副子）
2. 固定具の製作（沈子）
3. 肋骨骨折整復・固定法
4. 鎖骨骨折整復法
5. 鎖骨骨折固定法
6. 実技試験（鎖骨骨折整復・固定法）1
7. 実技試験（鎖骨骨折整復・固定法）2
8. 鎖骨脱臼整復法
9. 鎖骨脱臼固定法
10. 実技試験（鎖骨脱臼整復・固定法）1
11. 実技試験（鎖骨脱臼整復・固定法）2
12. 肩関節脱臼整復法
13. 肩関節脱臼固定法
14. 実技試験（肩関節脱臼整復・固定法）1
15. 実技試験（肩関節脱臼整復・固定法）2

成績の評価

授業中に行う実技試験の平均点によって評価する。(%)

定期試験、レポート等に対するフィードバック

実技試験終了後に個別に指導する。

自己学習

実技試験は授業中に配布する実技マニュアルに従って行う。授業中に口頭で説明する注意事項などを書き込むこと。また、採点は厳しいものとなるので、正しい実技を身につけるようにしっかりと練習すること。

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

実習中は必ず白衣着用のこと。

テキスト

「柔道整復学(理論編)」(南江堂)

「柔道整復学(実技編)」(南江堂)

実技マニュアル(授業中に配布する)

オフィスアワー

木曜日：放課後～18:00(在室時はいつでも対応します。メールでも可能です)

研究室・授業用E-mail

308研究室(診療研究棟3F)

講義コード	2J569011
講義名	頭部・胸部・上肢帯整復学実技Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	整復実技
科目ナンバリング	J2-3103
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井口 理	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

井口 理（柔道整復師）

目的

講義では、頭部・顔面の骨折、肩関節・顎関節の脱臼、肩部・顔面部の軟部組織損傷について、発生メカニズムから治癒までの経過を理解する。

実技では、頭部・顔面・胸骨・肋骨・鎖骨・肩甲骨の骨折、顎関節・肩鎖関節・胸鎖関節・肩関節の脱臼、肩部軟部組織損傷に関して、整復法・固定法・検査法・鑑別法の基礎を修得する。

なお、当該科目は、「キャリア教育科目」に指定されています。資格を取得した上で、自らが卒業後の職業を選択し、将来的にその現場で活躍、貢献できるよう授業の一部で「人間力」や「仕事力」が身に付くように支援します。

到達目標

各部位の外傷の特徴を理解し、国家試験に必要な知識を身につけるとともに、臨床に対応する知識と実技を修得する。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識・技術／実践力・対応力

授業計画

1. 頭部・顔面の骨折理論 1
2. 頭部・顔面の骨折理論 2
3. 頭部・顔面の骨折理論 3
4. 顎関節脱臼理論 1
5. 顎関節脱臼理論 2
6. 顎関節脱臼整復法
7. 実技試験(顎関節脱臼) 1
8. 実技試験(顎関節脱臼) 2
9. 頭部・顔面の軟部組織損傷理論 1
10. 頭部・顔面の軟部組織損傷理論 2
11. 頭部・顔面の軟部組織損傷理論 3
12. 各種治療法 1
13. 各種治療法 2
14. 柔道整復術における研究領域 1
15. 柔道整復術における研究領域 2

成績の評価

100%()

定期試験 但し、実技試験合格を以て定期試験の受験資格とする
定期試験は頭部・胸部・上肢帯整復学実技Ⅰの範囲を含む。

自己学習

実技試験は授業中に配布する実技マニュアルに従って行う。授業中に口頭で説明する注意事項などを書き込むこと。また、採点は厳しいものとなるので、正しい実技を身につけるようにしっかりと練習すること。

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

実習中は必ず白衣着用のこと。

テキスト

「柔道整復学(理論編)」(南江堂)

「柔道整復学(実技編)」(南江堂)

実技マニュアル(授業中に配布する)

オフィスアワー

木曜日：放課後～18:00(在室時はいつでも対応します。メールでも可能です)

研究室・授業用E-mail

308研究室(診療研究棟3F)

講義コード	2J570011
講義名	脊柱・上肢近位部整復学実技Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	整復実技
科目ナンバリング	J2-3105
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 藤原 清治	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

藤原清治（柔道整復師）

目的

脊柱・上肢近位部整復学で学習した知識を基に、実際の骨損傷を想定して整復や固定の実技を行う。内容は特に遭遇する可能性の高い骨損傷を中心に学習する。

到達目標

各損傷の状態を理解し、実際に整復や固定が施せるような実技を習得する。また固定具の作成や選択なども、状況に合わせて行えるように習得する。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識・技術／実践力・対応力

授業計画

1. ガイダンス
2. 上腕骨外科頸骨折 整復実技
3. 上腕骨外科頸骨折 整復実技
4. 上腕骨外科頸骨折 整復実技
5. 上腕骨顆上骨折 整復実技
6. 上腕骨顆上骨折 整復実技
7. 上腕骨顆上骨折 整復実技
8. 固定具作成
9. 固定具作成
10. 上腕骨外科頸骨折 固定実技
11. 上腕骨外科頸骨折 固定実技
12. 上腕骨外科頸骨折 固定実技
13. 上腕骨外科頸骨折 固定実技
14. その他の整復固定実技
15. まとめ

成績の評価

実技試験（100％）により評価する。

自己学習

脊柱・上肢近位部整復学で学習した各損傷の特徴や症状などを予習する。
授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

テキスト

「柔道整復学・理論編 改訂第6版」 (南江堂)

「柔道整復学・実技編 改訂第2版」 (南江堂)

実技マニュアル

※必要に応じてプリントを配布する。

講義コード	2J571011
講義名	脊柱・上肢近位部整復学実技Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	整復実技
科目ナンバリング	J2-3106
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 藤原 清治	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

藤原清治（柔道整復師）

目的

脊柱・上肢近位部整復学で学習した知識を基に、実際の関節損傷を想定して整復や固定の実技を行う。内容は特に遭遇する可能性の高い関節損傷を中心に学習する。

到達目標

各損傷を理解し、実際に整復や固定が施せるような実技を習得する。また固定具の作成や選択なども状況に合わせて行えるように習得する。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識・技術／実践力・対応力

授業計画

1. ガイダンス
2. 肘関節脱臼 整復実技
3. 肘関節脱臼 整復実技
4. 肘関節脱臼 整復実技
5. 肘内障 整復実技
6. 肘内障 整復実技
7. 肘内障 整復実技
8. 固定具作成
9. 固定具作成
10. 肘関節脱臼 固定実技
11. 肘関節脱臼 固定実技
12. 肘関節脱臼 固定実技
13. 肘関節脱臼 固定実技
14. その他の整復固定実技
15. まとめ

成績の評価

実技試験（100％）により評価する。

自己学習

脊柱・上肢近位部整復学で学習した各損傷の特徴や症状などを予習する。
授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

テキスト

「柔道整復学・理論編 改訂第6版」 (南江堂)

「柔道整復学・実技編 改訂第2版」 (南江堂)

実技マニュアル

※必要に応じてプリントを配布する。